

命を守ることは人権の基本です。新型コロナの影響で困窮している家庭が増えています。当ランチだより8月号でもフードバンクの記事を掲載しましたが、まだまだ支援が足りない現実があります。食事は生命維持のために重要な要素であり、特に子どもたちへの影響が懸念されます。自分たちができる食糧支援をすることが望まれます。コロナ禍で人の繋がりが希薄になり人権意識も薄くなっていく傾向があります。こんなときだからこそ、視野を広く困っている人に目を向ける必要があります。人を思いやり想像し手を差し伸べる、人権感覚があるかないかで行動は変わります。



## コロナ禍で苦しむ人々への速やかな支援をめざして

長引くコロナ禍の影響により、特に飲食業や観光業などで働く母子世帯のうち少なからずの方が、雇い止めや労働時間の減少により、深刻な生活苦に陥っています。「このたびは、(赤ちゃん用の粉)ミルクや食材の支援ありがとうございました。(中略)私は1日1食食べ、ミルクやおむつにお金を回していますが、このままでは自分自身がちゃんと子育てをしていけるか、不安でたまりません。」これは、県内の生活困窮家庭に食料支援を行っている認定 NPO 法人フードバンク山梨あてに届いた、ある母子世帯の母親からのハガキに記された言葉です。

政府は、新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少し生活に困窮する方を対象に、昨年からの市区町村の社会福祉協議会を窓口として「生活福祉資金の特例貸付」(緊急小口資金(貸付上限額・20万円以内)、等)を行っています。また、収入が少ない一人親世帯に対する「子育て世帯生活支援特別給付金」(子ども一人あたり5万円を支給)といった制度も創設しました。しかし、これらの緊急支援策は、それぞれ一度しか利用できません。

ちなみに本県では、生活保護給付を約3,500世帯が受給しています。しかし、その背後には生活保護世帯と同程度以下の低所得で暮らす世帯がその数倍(1万数千世帯)はいると言われていたとしても、受給要件が厳しい等により利用が殆ど広がっていません。(※厚労省の生活保護の捕捉率(2018年の推計値)=22.9%) 近く、衆議院選挙が行われますが、与野党が掲げる公約(生活困窮対策)には単発的な現金給付(例:1世帯や子ども1人あたり10万円、等々)などが多いようです。そうではなく、真に困窮している人には継続的に利用できるような支援策を打ち出すべきだと思います。また、一県民としても、できる範囲で無理なく、地域で困窮している人々の支援に関わる方が増えていくことを願っています。

私たちが身近にできる支援の一つは、食料の寄付です。例えば今の時期、多くの稲作農家でお米の収穫が行われます。その際、これまで保存しておいたお米が余ってれば、ぜひ県内のフードバンク団体等に寄付して頂ければ幸いです。

＜フードバンクやまなし 第22回フードドライブのご案内＞

11月16日(火)まで県下各地で食料寄付の受付を行っています。お米以外では、缶詰、乾麺類、レトルト食品、シリアル、お菓子などで賞味期限が来年1月末以降の常温保存食品を募っています。(※詳しくはホームページでご案内しています)

## 活動報告

### 人権移動教室

9月24日(金) 甲府市立大田小学校、10月5日(火) 甲府市立国母小学校、10月18日(月) 甲斐市立双葉東小学校、10月19日(火) 甲府市立大里小学校、10月20日(水) 甲府市立上条中学校、甲府市立新紺屋小学校において人権移動教室を開催しました。

### 人権啓発講演会

10月19日(火)、甲府市庁舎において、人権啓発講演会を開催しました。

## 今後の予定

### 人権啓発パネル展

11月4日(木)～11月17日(水)、甲府市中道公民館



＜お詫びと訂正＞ 先月号にて、甲斐市立双葉東小学校の人権移動教室が9月18日になっていましたが、正しくは10月18日でした。訂正とお詫びを申し上げます。

人権移動教室の授業を受けた子供たちの感想文が、裏面にご覧いただけます。



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチ  
特定非営利活動法人横浜国際人権センター山梨

会長：横山隆史

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室  
TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. [yamanashi@yihrc.or.jp](mailto:yamanashi@yihrc.or.jp)

協賛企業：(株)成心設備、西関東開発(株)、(株)ウィルマート、(株)R&C、(株)フジコー、(株)渡辺工業所、甲府市管工事協同組合

＜協賛＞  
山梨県  
甲府市  
甲斐市



# 国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチだより (2021 年 10 月号)

甲府市立千塚小学校 (男子)

『人権講話』

名前 ( )

「人権、てなんだろ」とぼくは人権のことをよく知りませんでした。でもぼくはこの人権の授業を受けて、人権は「自分の命とあやせを守るための権利」ということを知りました。この世界に生きている自分ですが、見えなところでもたくさんの人々に支えられ生きていくこともしました。自分も考えてみると水道の水を飲みたいときにのめたり、ものを食べたいときにものを食べられるのは見えなところではがんばってくれている人がいるからでした。この世界にはたくさんの国があり、いろいろなじょうで苦しんでいる人たちがいました。しかし、その苦しんでいる人たちをすくった人々 (MSF) がほぼボランティアで苦しんでいる人々を救っていました。また、先生がいったように月に1回くらい、自分にしつもんをして、自分を知られたと思いました。ぼくは、これから、人権のことを常に考えていきたいです。

人権移動教室に参加した子どもたちの感想文をご紹介します。

甲府市立千塚小学校 (女子)

『人権講話』

名前 ( )

私は人権という言葉は知っていたけれど、意味は分かりず。今回「自分の命と自分の幸せを守るけんり」という意味を聞いて、あらためて、人権の大切さを知ることができました。そして今回のお話を聞いて、私は相手のことを考えているつもりでも、自分のことだけを考えてしまうときもあったことを知りました。そして、相手がいていたり、体が不自由な人にすぐ手を差し伸べられていたことがとても知りました。そして、この世の中には、幸せをつかみとることのできない世界もたくさんあるということも知ることができました。なので、これから、自分が生きていることをいつも感謝し、相手がいていたり、体が不自由な人に手をさしのべ、人権を1秒もめくれるず、人権を大切にしていきたいです。